

# HoPIC

Hokkaido Peripheral Intervention Conference  
北海道ペリフェラルインターベンション研究会

## 2006 Meeting

会期：平成18年4月22日(土)

会場：札幌パークホテル

(札幌市中央区南10条西3丁目)

Tel:011-511-3131)



札幌心・血管治療研究会

<http://www.slhc.jp/>

## 第1回HoPIC開催にあたって

佐藤 勝彦 時計台記念病院 循環器センター



第1回北海道ペリフェラルインターベンション研究会 (HoPIC) を開催するあたり、幹事を代表いたしましてひとご挨拶申し上げます。

近年冠動脈疾患に対する治療技術やデバイスの進歩は目覚ましく、またテレビや新聞などにも生活習慣病やメタボリック症候群などを取り上げた番組や記事を毎日のように見かけられるようになり、社会的な関心度がいよいよ深くなってきた印象があります。一方で、末梢血管疾患に関しては同様に動脈硬化性狭窄が主体であるにもかかわらず、それに対する関心度は明らかに冠動脈疾患のそれよりも劣っているのが現状です。放置しておけば確実に生命予後に悪影響を及ぼすことが様々な大規模研究で実証されておりますが、一般臨床医に限らず、循環器専門医の間でさえもそのような事実が周知されていないか、または軽視されており、その診断法や治療の標準化に関しては世界的水準から大きく遅れていると言わざるを得ません。

このような問題に対し、昨今末梢血管治療にフォーカスをおいたライブや研究会が全国数カ所で行われるようになり、各地から多くの参加者が集い、活発なディスカッションの中から少しずつ治療法や診断法の標準化が進んでまいりました。しかし、ここ北海道においては今までこのような研究会やライブは存在せず、そのため現状のままではこの分野に関する医療レベルの立ち後れを招く可能性が危惧されておりました。そこで末梢血管治療の診断および治療法を広く啓蒙し、基礎的なレベルから最新の情報まで網羅することで、北海道全体のこの分野の医療レベルを向上させる目的とし、表記研究会を立ち上げることとなりました次第です。

開催に当たりましては、各方面の皆様にも多大なるご協力とご指導をいただきました。この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。当研究会は、母体である「札幌心・血管治療研究会」の全面的協力を得て秋のライブデモなども計画しており、皆様の日常診療にすぐに役立つような話題、情報を提供できますよう、幹事一同努力いたしますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## HoPIC開催に寄せて

横井 良明 先生 岸和田徳洲会病院 循環器科



この度、札幌で始まる末梢インターベンションの研究会が始まるとお聞きしました。冠動脈疾患の治療に専念してきた循環器内科医が中心となった会と存じますが、北海道の血管治療の先端的な役割を果たされることと思います。特にこの分野では血管外科医や放射線科医がカテーテル治療もされていたと思いますが、循環器内科医の特徴である全身疾患の管理にも重点をおいた会にしたいと思っています。

粥状動脈硬化を基盤とした末梢動脈硬化性疾患は下肢動脈、頸動脈、鎖骨下動脈、腎動脈など全身の血管に及びますし、臓器循環障害の主要な原因となっています。主要な動脈硬化疾患は冠動脈疾患と同様に独立した心血管イベントや予後の予測因子であることが明らかになってきました。このような末梢動脈硬化疾患に対するカテーテル治療は、その低侵襲性から冠動脈疾患や重篤な合併症を有する症例にも適用でき、外科手術に変わる重要な血行再建手技になってきているのが現状です。北海道の優秀な先生方々が優れたPCIの技術を用いてカテーテル治療を展開されていくことを切に望みます。

今回の会に参加できないのは大変残念です。私から一言いわせていただければ、佐藤勝彦先生を中心として、みんなが仲良く、楽しく意義ある会にしていきたいと思います。それでは、秋にはお会いしましょう。

## お祝いの言葉

横井 宏佳 先生 小倉記念病院 循環器科



HOPIIC開催おめでとうございます。JPIC、QPICに続いて三番目の末梢インターベンション研究会が立ち上がり、この領域の全国的な広がりを実感しております。QPICは2003年秋よりはじめ、すでに3回開催しております。第2回からはライブデモも取り入れ、昨年のQPIC 2005は200人を超える参加をいただき、九州はPPIで熱く盛り上がっております。

日本でDESが導入され既に1年半が経過し、PCI後の再狭窄率は著明に低下しましたが、PCIの長期予後改善の為に、冠動脈のみならず全身血管の診断治療の必要性が注目されております。全身血管病検出の為に血管エコー法や全身血管病治療の為にカテーテル技術の習得は、これからの循環器インターベンション医に間違えなく求められるものであります。そのためには、我々は脳血管、大動脈、腎動脈、下肢動脈などの幅広い領域において知識を身につけなければなりませんし、血管外科医、脳神経外科医、放射線科医との連携も重要になると思います。HOPIICの開催は今後の北海道の末梢血管病領域の診断及び治療の発展に寄与し、北海道の人々に大きな恩恵をもたらす事になるでしょう。

# Program

## メイン会場 【3Fエメラルド】

## エコー会場 【3FパークホールB】

15:00

■Opening remark 佐藤 勝彦 (時計台記念病院)

15:05

■症例発表 座長 野崎 洋一 (北光記念病院)

15:20

I. 「下肢閉塞性動脈硬化症」  
演者 廣上 貢 (手稲溪仁会病院)

II. 「典型的な腎血管性高血圧症」  
演者 山下 武廣 (心臓血管センター北海道大野病院)

15:35

■特別講演 I  
司会 山下 武廣 (心臓血管センター北海道大野病院)

「超音波で診る血管疾患」

講師 佐藤 洋 先生 (京都大学医学部附属病院)

16:15

■特別講演 II  
司会 佐藤 勝彦 (時計台記念病院)

「病診連携からみた末梢循環障害の診療」

講師 松尾 汎 先生 (松尾循環器科クリニック)

16:55

Coffee Break

17:05

■症例発表 座長 廣上 貢 (手稲溪仁会病院)

17:20

III. 「My Toughest Case - 下肢動脈」  
演者 藤田 勉 (札幌東徳州会病院)

IV. 「My Toughest Case - 腎動脈または鎖骨下動脈」  
演者 野崎 洋一 (北光記念病院)

17:35

■特別講演 III  
司会 藤田 勉 (札幌東徳州会病院)

「末梢動脈疾患と鎖骨下動脈狭窄症に対する  
インターベンション」

講師 河原田 修身 先生 (岸和田徳州会病院)

18:15

■特別講演 IV  
司会 佐藤 勝彦 (時計台記念病院)

「頸動脈と腎動脈のカテーテル治療の現状」

講師 横井 宏佳 先生 (小倉記念病院)

18:55

■Closing remark 藤田 勉 (札幌東徳州会病院)

19:00

末梢血管エコー・ハンズオン講習会  
◆◆とことん血管エコー◆◆

講師  
佐藤 洋 (京都大学医学部附属病院)  
照澤 和仁 (札幌東徳州会病院)  
寺澤 史明 (新日鐵室蘭総合病院)  
遊佐 亨 (手稲溪仁会病院 放射線科)  
松原 沙織 (心臓血管センター北海道大野病院)  
工藤 良介 (北光記念病院)

情報交換会  
《パークホールC》

20:30

# SLDC2006

サッポロ・ライブ・デモンストレーション・コース 2006  
*Featured on Complex PCI & Peripheral Angioplasty*

会期：平成18年8月31日(木)

9月1日(金)

9月2日(土)

会場：京王プラザホテル札幌  
(札幌市中央区北5条西7丁目)

TEL：011-271-0111

## 実行委員会

佐藤 勝彦 (時計台記念病院)  
藤田 勉 (札幌東徳洲会病院)  
野崎 洋一 (北光記念病院)  
廣上 貢 (手稲溪仁会病院)  
山下 武廣 (心臓血管センター北海道大野病院)

## 後 援

日本ペリフェラル インターベンションカンファレンス  
九州 Peripheral Intervention Conference

## 共 催

大塚製薬株式会社  
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社  
テルモ株式会社  
東芝メディカルシステムズ株式会社  
ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

## 主 催

北海道ペリフェラルインターベンション研究会

## 事務局

〒060-0003 札幌市中央区北3条西3丁目1番地  
TEL:011-272-9191 FAX:011-272-9199  
株式会社スクウェア・ワン内 担当：玉井